

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201107		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム 第2からまつ さくら草		
所在地	札幌市北区拓北4条3丁目 10番17号		
自己評価作成日	平成28年1月23日	評価結果市町村受理日	平成28年6月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR拓北駅より3分ほどの静かな住宅街にある為、交通の便がよく、また、駐車場も完備しているの  
で、ご家族様の来訪には気兼ねなく来て頂ける環境にある。庭には芝生が貼ってあるので、夏場には焼肉ができたり、日差しを浴びながら昼食会も行える。畑を作り、トマトやお芋などをうえたり収穫を楽しんだりしている。また、実のなる樹木もあり、さくらんぼ・栗・ぶどうと季節の果物を採る、味わうなどの楽しみも持っている。一人一人が出来ることを大切に、小さなことでも声をかけ、自分で行えるよう支援している。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170201107-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170201107-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホーム第2からまつは、近くにJR駅や公園、コンビニエンス・ストアがある等便利な場所に位置している。3階建ての建物で元は学生寮であったが、現在は利用者の生活に合わせて設備を使い易く改造し、ユニット毎に間取りが異なっている。利用者の活動意欲を保つために共有部分にゲームや本などを置き、壁には季節の装飾やカレンダー、利用者の写真などを飾っており、加湿器も設置されている。介護理念と地域密着の意義を踏まえた事業所独自の基本理念を各ユニットに掲げ、職員は理念を理解している。管理者は、市の担当者と連絡を密に取り、協力関係を築く取り組みを行っている。毎月2～3回は区の担当者を訪問し情報交換をし、区の管理者会議に毎回出席している。利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係を大事にしており、通院時や散歩の時に、利用者の馴染みの場所を通るようにしている。また、家族の協力を得て馴染みの美容院に通ったり、お正月やお墓参りを家族と過ごす利用者もいる。利用者が適切な医療を受けられるように支援している。協力医療機関の医師による2週間ごとの訪問診療と、看護師による1週間ごとの訪問看護がある。協力医療機関以外の受診は原則家族対応だが、殆どを事業所に対応している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を念頭に作成した基本理念があり、常に確認・意識できるよう廊下とリビングに掲示し理念を共有し、実践につなげている。	「地域や自然と関わりを持って穏やかに」の文言からなる事業所独自の基本理念を各ユニットに掲げ、朝の申し送りや唱和する等、全員で確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会総会には参加したが、町内会の他の行事には参加できていない。	町内会の総会に管理者が参加している。また、事業所が主催した夏祭りの焼肉パーティに町内会役員を招待し、会長の参加を得ている。一方、地域行事への参加や地域の方々との触れ合いは少ない。	町内会役員や近所の方々を通じて地域行事の情報を収集することを期待したい。また、近くの幼稚園など子供達との触れ合いも期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談など突然の訪問にも対応し、ご家族様の悩みや不安に対し、相談に乗っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隔月で開催しており、活動報告・利用者状況・事故報告を行い、参加者からの意見や課題を検討している。また、避難訓練への地域の方の参加の要請方法など相談し、意見をいただいている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催され、町内会役員、地域包括支援センター職員、家族等の参加を得ており、議事録も全家族宛に送付しているが、前回の外部評価で取り組み事項とした年間テーマ設定は引き続きの課題となる。	運営推進会議の年間テーマを設定して参加者と全家族に示し、出席できない家族には、会議案内を送付する際に、意見を集約する等の取り組みに期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことなど電話で相談し確かな情報をいただくなど協力してもらっている。	管理者は、毎月2～3回は区の担当者を訪問し情報交換をしている。また区の管理者会議に毎回出席している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止のマニュアルをいつでも閲覧できるように休憩室に置いてある。また、職員全員が理解できるように事業所内においても勉強会やプリントで回答を提出してもらうなど継続的に確認の機会を設けている。	11項目の「指定基準で禁止の対象となる具体的な行為」を示した小冊子を職員に配布し、11項目を職員の休憩室に掲示している。法人主催の年2回の内部研修も実施予定である。玄関は、現状では安全の確保が必要な利用者がいるためセンサーと併用して施錠しているが、鍵は内側から容易に開けられる状態で、職員も利用者が抑圧感を感じないように対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回の内部研修で虐待について学び、職員同士も互いに声を掛け合う、おかしいと感じたことを話し合うなど日常的に注意しあえる環境を作っている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度についての勉強会はまだ行っていないが、次年度の職場内研修計画には予定を立てている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には十分な説明を行い、ご家族、ご利用者様の理解と納得を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が来苑された際は日常の報告を行い、ご本人やご家族の思い、要望などを聞き、職員と改善や対処について話し合い運営し反映している。	半数弱の利用者の家族が毎月1回以上訪問し、毎週訪問している家族もいるが、訪問回数が少ない家族もいる。家族意見は連絡帳に記載しているが、他の連絡と同じノートである。家族あての通信は、現在発行が滞っている。	家族宛に利用者の様子を伝える事業所独自の通信を作成し、家族宛に定期的に発送することを期待したい。また、家族の意見用のノートを別途用意し、利用者ごとに確認できる工夫を期待したい。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から、職員の意見や要望に耳を傾け、他の職員ともその意見や要望について話し合い、反映させている。	管理者は、毎朝、ユニットごとに30分程度の申し送りを行っている。その時間帯に介護計画のカンファレンスを行い、職員の意見や相談等も聞いている。内容は全て連絡帳で共有している。個人面談は特に行っていない。職員は帳票や行事、ウエス作り等の役割を担っている。	毎月の会議を開催し、カンファレンスやモニタリング、サービス担当者会議を行い、議事録も整備することを期待したい。また、職員の個人面談も定期的に行うことを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は正社員制度を確立させ、個々の能力に応じた評価を行っている。また、内部研修や外部研修への参加にも力を入れている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は勤務扱いとし、費用も法人が負担し、向上心を持てるようにしている。また、個人が受ける研修には公休をつけ、受講できるシフトづくりをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市や北区の管理者連絡会に参加し、情報交換や交流を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の見学時にご本人が不安に思っていることや困っていることを聞き、どのような対応が出来るかを話し合い、少しでも安心して頂ける様努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学時にご家族が不安に思っていることや困っていること、ご家族にしかわからない利用者の性格や生活歴をうかがい、ホームではどのような対応ができるのかなどを話あい、信頼関係を構築する努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族様からの情報をもとに、まず何が必要を見極め、他のサービスの情報提供も含め、説明している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の負担にならない範囲で食器拭き、洗濯たたみなど手伝って頂く。また、ご本人の居室の掃除も一緒に行うなどし、生活に役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事のご案内をし、一緒に楽しんでいただける場面を提供したり、面会時には、他の方を気にしないよう居室でゆっくりと過ごして頂いている。また、体調の変化などはこまめに電話で報告し、情報の共有をし、暮らしをともに支えあっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年に数回親戚の方が来られ、居室でゆっくりして頂いている。お盆にはお墓詣りに出かけたり、お正月には外出をされる方もいる。	通院時や散歩の時に、利用者の馴染みの場所を通るようにしている。1名の利用者に宗教関係の方が訪問している。家族の協力を得て馴染みの美容院に通ったり、お正月やお墓参りを家族と過ごす利用者もいる。職員が利用者の自筆年賀状をポストに投函するケースもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	良く会話をされている方がいたり、隣席の方の下膳を気にかけてくれる方がいたり、利用者様同士がお互いを気にかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	あるご家族は地方に暮らしている為、病院に行ったときは様子をうかがい電話や手紙で様子を伝えたりしたい。退去後も運営推進会議の構成委員を続けてくださる家族もいる。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とのコミュニケーションをこころがけ利用者の動きを観察しながら一人一人の思いや意向を把握している。	職員は、言葉で思いを表現できない利用者には、表情や行動を参考に把握している。アセスメントシートに情報を記録しているが、定期的な更新はなされていない。	アセスメントシートの定期的な見直しを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族から情報をもらっているが、ご本人との話の中や、動きの中から情報を把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人一人の生活の中から出来る事、できないことを把握し、職員間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を更新する際は計画担当者が中心となり、家族の要望を確認し、モニタリングにて評価・問題の課題を見つけプランに反映させている。	利用開始後に、1ヵ月、3ヵ月、6ヵ月で介護計画を見直し、その後は6ヵ月ごとに見直している。状態が変化した際は随時見直している。カンファレンスは随時行われているが記録は整備されていない。	サービス担当者会議を定期的で開催し、カンファレンスやモニタリングの記録を整備することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録・情報の共有の必要性や重要性を認識しており、毎日の申し送りでその日の気づきを申し送ったり、連絡ノートで周知している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	隔週で訪問診療を受けており、日々の生活の中で新に生まれるニーズには家族の状況を踏まえ、て対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員や地域支援包括センターの職員の助言を生かしながら安全な暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現役で働いている家族や高齢の家族が多く、ほとんどの受診はホームで行っている。日々の状態や、体調などを的確に答えることでかかりつけ医との関係を築いている。	協力医療機関の医師による2週間ごとの訪問診療と、看護師による1週間ごとの訪問看護がある。協力医療機関以外の受診は原則家族対応だが、現在は殆どを事業所に対応している。医療情報は全職員で共有している。	

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護を受け、健康チェック・医療の指導、指示を受けている。また、日常生活の中での注意点など助言をもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護添書にて日常生活を遅多恵、入院中にも利用者が不自由がなく安心して医療が受けられるようにしている。入院中も利用者への顔出しは意識しており、不安の軽減を図り、病院とも治療状況を聞き、早期退院にむけて取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化した場合の対応に係る指針として説明し、同意を得ている。過去にはご家族からぎりぎりまでホームで生活させたいとの希望があり、医療機関との連携を取りご家族の希望に沿ったケアを提供できたことがある。	利用開始時に「入所者が重度化した場合の対応に係る指針」を示して本人・家族に説明し、署名捺印を得ている。実際に重度化した場合は、医師も含めて家族と相談し、家族の希望に沿った対応を行っている。常時医療行為が必要になるまでは事業所で対応が可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを各職員が把握し対応できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署、防災設備会社の協力を得ながら避難訓練を行っている。地域の方には避難訓練への参加のお願いを配布しているがまだ、参加してもらえたことはない。地域や関係機関には今後も避難訓練のお知らせを配布し協力をお願いしていく。	夜間対応の自主避難訓練を9月に行い、消防署の立ち合いによる昼間対応の訓練は3月中に行う予定であるが、地域の協力は得られていない。災害時の備品は用意されている。救急救命訓練は職員の入替わりがあったこともあり、定期的な訓練は今後の課題である。	運営推進会議の参加者や近所の方々を対象に、直接お願したり、「お願い用紙」を配布する等で、避難訓練時の協力を得ることを期待したい。また、職員の救急救命訓練を定期的に行うことを期待したい。

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	呼び掛けは基本、さん付で呼んでいるが家族の希望でご本人の好む呼び方をしている方もいる。居室を尋ねる際もノックし返事を待ってから入るなどプライバシーにも気を付けている。	利用者への呼びかけは「さん」づけを基本とし、家族の希望で、より親しみを込めた呼びかけをする場合もある。個人ファイルは事務所で安全に保管している。一方、接遇やマナーの勉強会等はあまり行っていない。	利用者への人格の尊重やプライバシーの確保、接遇やマナー等について、マニュアルを整備し、定期的に研修や勉強会を行うことを期待したい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己表現できる方には聞く耳を傾け、思うように表現できない方には言葉を選び、自己決定が出来るような声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やお茶の時間など日課の中で決まっていることもその時の気分やペースに合わせて自己決定できる声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装や行事・外出などご本人の選択を優先し、季節に添ったおしゃれが出来るよう声掛けを行っている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備が始まったらいい匂いがするね。など食事に対して楽しみが持てる声掛けを行っている。また、外食や出前などいつもと違う食事の提供も利用者の希望を聞きメニューを決めている。	献立は食材会社によるものだが、誕生日にはケーキや赤飯も提供している。配膳やテーブル拭き、下膳などを利用者が手伝っており、一部の職員は同じ食事を会話しながら楽しくとっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は栄養士が作ったメニューで提供している為、栄養バランスは取れており、食事の量も年齢や性別などその方に合わせて加減している。チェック表を用い食事・水分量が確保できるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアに注意し個々の能力に応じて声掛け、誘導を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を用い、日中・夜間の排泄パターンを把握している。夜間のみポータブルトイレを使用している方や昼夜通してトイレでの排泄を支援している。	自力でトイレに行ける方が多く、声かけと介助が必要な方は排泄チェック表でパターンを把握し、耳元で小声で声かけしている。夜間にポータブルトイレを利用する方と自室でオムツ交換の方が各1名ずついる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品の摂取などで便秘予防に取り組んでいると同時に、廊下歩行やストレッチ体操を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	職員配置の都合から平日午後入浴を行っている。曜日を定める事で自身のペースを作っている方もいるので全員の入浴日は決めているが、入りたくない日は無理強いせず、翌日にするなど臨機応変に対応している。	日曜日以外は毎日入浴可能で、午後の時間帯に各利用者が週2回入浴を行っている。拒否がある方は、翌日にずらしたり、声かけの工夫で入浴に繋げている。入浴剤を使ったり、湯温を調整して気持ちよく入浴できるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後のうとうとする時間帯にはお昼寝を勧めたり、室温や掛物なども快適が得られるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の情報書は個々のファイルに入れてあり、いつでも見られるようにしてある。薬の変更があったときは申し送りやノートにて全員が把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや花の水やりなど日常的に行ったり、オセロで楽しんだりしている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(さくら草)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近所輪散歩したり、庭の草刈や果物の収穫を楽しんでいる。お盆には家族とお墓参りに出かけたりするが、出先で困らないよう排泄のことなど家族へ伝え、快適な外出が出来るよう支援している。	天気の良い日は日常的に周辺を散歩したり、事業所の庭の手入れをしている。行事では百合が原公園の散策やバイキングレストラン、寿司店での外食、ホテルでのクリスマス会などに出かけている。近年、冬季の外出が減っているため、外出機会の増加を検討している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で金銭の預かりはないが、いくらかの金銭を持っている方もいる。希望があれば買い物に出かけたり、立替として買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人からの希望があれば、はがきを買ってくる、手紙を出すなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング・廊下には季節の飾りつけがしてある。テレビは人の頭が邪魔にならない高さで置いてあり、好きな番組を楽しんで頂いている。	2階と3階はユニット毎に間取りが異なり、3階の方が共用部分は広がっている。ゲームや本などを置き、活動意欲が持てるようにしている。壁には季節の装飾やカレンダー、利用者の写真などを飾っている。加湿器で湿度が保たれるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングでは気の合う者同士が談話したり、編み物をしたり自由に過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていたタンスや仏壇を持ってきている。大切な方の遺影を置いている方もおり、ご本人が安心し、落ち着いて暮せる用工夫されている。	居室には利用者が自由にテレビや机、椅子、収納ケースなどを持ち込み、家庭と同じように過ごすことができる。壁にもカレンダーや時計などを飾り、本人らしい居室となっている。ベランダのある部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内はバリアフリーになっており、手摺を設置し安全に移動できる。居室には表札をつけ、トイレなどの表示もわかりやすく表示している。		



自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201107		
法人名	有限会社 篠路愛護苑		
事業所名	グループホーム 第2からまつ 月見草		
所在地	札幌市北区拓北4条3丁目 10番17号		
自己評価作成日	平成28年1月23日	評価結果市町村受理日	平成28年6月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

JR拓北駅より3分ほどの静かな住宅街にある為、交通の便がよく、また、駐車場も完備しているの  
で、ご家族様の来訪には気兼ねなく来て頂ける環境にある。庭には芝生が貼ってあるので、夏場には  
焼肉ができたり、日差しを浴びながら昼食会も行える。畑を作り、トマトやお芋などをうえ、利用者  
と一緒に手入れをしたり収穫を楽しんだりしている。また、実のなる樹木もあり、さくらんぼ・栗・ぶどう  
と季節の果物を採る、味わうなどの楽しみも持っている。レクリエーションにも工夫をし、トランプ遊び  
など簡単なルールにかえ、全員が遊べるように考えている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170201107-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0170201107-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成28年3月19日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみ られている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせてい る (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援によ り、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることを よく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪 ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつなが りが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思 う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足し ていると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を念頭に作成した基本理念があり、常に確認・意識できるよう廊下とリビングに掲示し毎朝の申し送り前に唱和し、理念を再認識し、実践している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	火災訓練では町内会にも声掛け、地域では夏祭りの声掛けを行い利用者と一緒に関わりを持っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や相談など突然の訪問にも対応し、ご家族様の悩みや不安に対し、相談に乗っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は隔月で開催しており、活動報告・利用者状況・事故報告を行い、参加者からの意見や課題を検討している。また、避難訓練への地域の参加の要請方法など相談し、意見をいただいている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	わからないことなど電話で相談し的確な情報をいただくなど協力してもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会への参加、職員同士でも情報を共有しケアにつなげている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会に参加、情報を共有することで防止の徹底を行っている。また、身体介護の方法について話し合いを行っている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見人制度についての勉強会はまだ行っていないが、次年度の職場内研修計画には予定を立てている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時には十分な説明を行い、ご家族、ご利用者様の理解と納得を頂いている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来苑時に日常の状態を報告。また、意見箱を設置し、気軽に記入できるよう努めている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から、職員の意見や要望に耳を傾け、他の職員ともその意見や要望について話し合い、反映させている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社は正社員制度を確立させ、個々の能力に応じた評価を行っている。また、内部研修や外部研修への参加にも力を入れている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は勤務扱いとし、費用も法人が負担し、向上心を持てるようにしている。また、個人が受ける研修には公休をつけ、受講できるシフトづくりをしている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市や北区の管理者連絡会に参加し、情報交換や交流を行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの生活に慣れて頂くために、話を聞き、安心した居場所になるよう見守り、声掛けに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況を傾聴して、家族もホームでの生活が理解でき、信頼関係が保てるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの生活状況を把握して、また、希望等聞き、安心して生活が出来るよう環境を整えている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来る事、不自由な場面を見極めて、一日の中で役割を持てるよう有意義に楽しく過ごせる様支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事、お誕生会などお誘いし、一緒に参加、楽しんで頂ける様案内している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	来苑のかたよりお話を聞いたり、本人の話から人や場所の話ができるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	場面の状況判断で、介入し互いに気持ちよく過ごせる様支援している。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族が地方の暮しており、郵便物の転送などには現在の様子などお知らせしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活を職員が把握、表情や言葉で思いや意向を理解するよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴を家族より聞き、新しい環境に不安のない様職員全員で見守っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	表情や言葉で精神状態、身体状態を把握、職員同士で情報交換を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の要望を聞き、また、家族からの要望も尋ね、介護計画輪作成、モニタリングでは職員で評価を行い新しい課題を見つけている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入、連絡ノートで日々、気づいたことを記入して、今の状態をか悪、また、計画の見直しにつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の協力も得て外出・外泊を行い、また、受診においても協力を得ている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の施設とも協力して一緒に行事の参加等を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療・訪問看護の医療連携の協力を得、指示を受けて対応、また、家族の協力のもと、かかりつけ医の受診も行っている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時、1週間の状態を報告、状態により指示を受け、相談をおこなっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供により、速やかに受診できるよう支援を行い、家族へも経過報告をおこなっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は早い段階より病院関係者・家族・それぞれと話し合いを行い、安心できる方向で支援をおこなっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受け、緊急時の為の連絡事項等、対策を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	昼間・夜間とそれぞれ避難訓練を行い、股、町内会とも協力体制を整えるよう働きかけている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	刑を持ち、あいさつ・声掛けを行っている。個人情報への扱い方、記録の書き方も気を使っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	生活の中で拒否もあり、状態にあった過ごし方を選べるよう見守りを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	フロアで過ごしたり、居室で小物を作ったり、その日の状態により過ごし方を選べるように声掛けを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服等自分で選べるよう声掛けし、また、利用の際は自分で髪型を決められるよう支援を行っている。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルセット・テーブル拭き・食器拭き等、それぞれ出来ることを一緒にやっている、また、出前や外食も行い、気分を変えて楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立についてはカロリー計算されており、栄養バランスを考えている。水分についても、お茶やジュース等水分量・食事量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛け、できない方については介助行い、状態によっては訪問歯科の受診を受け、口腔内のいい環境を意識している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、声掛けを行っている。また、時間を見て、トイレの声掛けを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、ヨーグルトやゼリー等の提供、適度な運動の声掛けも行っている。状態により、坐薬または浣腸の受診を受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回の入浴を行っているが、状態により、シャワー浴、足浴、清拭と個々の支援を行っている。拒否の時は翌日に再度声掛けを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動、気持ちの良い入浴により、睡眠できるよう過ごし方を見守り、また、昼寝等様子に応じて進めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療時、変更のある薬の記録を行い、説明書により確認行い、服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	行事の飾りの準備、お手伝い、レクリエーションではゲーム、トランプ歌等で時間を過ごしている。他のユニットへも職員と一緒にいる。		

グループホーム 第2からまつ

自己評価	外部評価	項目	自己評価(月見草)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩・買い物・外食等、行事を行っている。また、家族の協力のもと、外出・外泊も行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	会社の方針で金銭の預かりはないが、いくらかの金銭を持っている方もいる。希望があれば買い物に出かけたり、立替として買い物支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつでも電話をかけられる様支援おこなっている。また、かかってきた電話についても話ができるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節・行事により環境を整え、楽しんで頂いている。場所については分かりやすい様に掲示や一で示している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	お互いの部屋へ遊びに行き、談話されたり、一人で過ごしたり、またはフロアでテレビ、新聞を見たり、今のソファへ座ったりそれぞれが動き、過ごしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、居室はそれぞれ家具、写真などの飾り物で整理されている。掃除の際は希望があれば配置を替え、気分を変えて過ごしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれ居室に手すりをつけ、歩行不安定な方は使用し浴室も安全に入浴できるよう、工夫をしている。場所が理解できるよう表示、一で方向を示している。		



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム 第2からまつ

作成日：平成 28年 4月 3日

市町村受理日：平成 28年 6月 7日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議の年間テーマを設定して参加者と全家族に提示し、出席できない家族には、会議案内を送付する際に、意見を集約する等の取組み	年間計画を設定し、参加者・全家族に提示する	・年間計画をたてる ・立てた計画を参加者と全家族に提示する ・会議案内を送付後、電話での参加確認を行い、その際に意見をうかがう	1年
2	23	アセスメントシートの定期的な見直しできていない	アセスメントシートの定期的な見直しを行う	変化や情報があった都度、赤ペンで追記し、1年に1度見直しを行う	1年
3	26	サービス担当者会議を定期的に行いカンファレンスやモニタリングの記録を整備できていない	・サービス担当者会議を定期的におこなう ・カンファレンスやモニタリングの記録を整備する	・サービス担当者会議・ケアカンファレンス・モニタリングはケアプランの短期目標期間に合わせて行う ・カンファレンスやモニタリングの記録用紙を統一し整理する	1年
4	11	毎月の会議を開催し、カンファレンスやモニタリング、サービス担当者会議を行い、議事録も整備する。また、職員の個人面談も、定期的に行う	職員との定期的な面談を行い、意見や提案を聞く	・半年に1度の職員面談を行う	1年
5	36	利用者の人格尊重やプライバシーの確保、接遇やマナー等についてマニュアルを整備し、定期的に研修や勉強会を行う	・マニュアルの整備 ・利用者の人格の尊重・プライバシーの確保、接遇やマナーの勉強会を行う	・人格の尊重、人格の尊重についてのマニュアルを整備する(接遇・マナーのマニュアルはある) ・研修の年間計画の項目に人格の尊重とプライバシーの確保の項目を入れ、勉強会を行う	1年
6	35	運営推進会議構成委員や近隣の方々を対象に避難訓練の協力を得る。また、職員の救急救命訓練の定期的な受講	・運営推進会議の構成委員や近隣の住民に避難訓練へ参加してもらう ・職員の救急救命講習受講	・運営推進会議の構成委員や近隣の住民に避難訓練のお知らせと参加頂ける様お願いする(近隣の住民へは昨年度よりお知らせと参加のお願いを配布しているので継続する) ・近隣のGHIに声をかけ、ホームで救急救命講習を開催する	1年
7	2	地域行事に参加できていない。また、近くの幼稚園児や子供たちとのふれあいを持ってない	町内会などの行事に参加できる。また、幼稚園や学校の行事などに参加し子供たちと触れ合う	・運営推進会議に来られる地域の方などに町内会の行事を教えてもらい、参加できそうなものに出向いていく ・小学校や幼稚園の行事へ出向いていき、子供たちと触れ合う	1年

8	10	家族あてに利用者の様子を伝える通信の発行ができていない。家族の意見用のノートがなく、家族との意見交換ができていない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な通信の発行を行う</li> <li>・家族からの意見や要望は一つのノートでまとめ利用者ごとに確認できる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・月に1回の通信の発行を行う(毎月下旬)</li> <li>・家族からの要望書があるので利用者ごと綴り確認する</li> </ul>	1年
---	----	---	--	---	----

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。